

丹沢：ヒゴノ沢

- ◆日程 2019年3月30日(土)
- ◆メンバー L：佐藤(俊)、須田、小山田、岡村、今
- ◆天候 曇り後晴れ

自分にとっては今シーズンどころか、初の沢登り体験である。

個人ごとになるが、自分の父は山関連のことは大概やっている大ベテランで、こと山に関連することにはいろいろと厳しく、且つ、口うるさかった。その父への反発もあってか、自分は海のスポーツにのめりこみ、山をやり始めたのは7年程前からである。

なぜ山に近づけなかったか・・・はきっと、子供の頃、父に連れられての無理矢理の泣きながらバカ尾根山行や富士山ダンガン登山、その他・・・が原因だろうと思っている。

そんな父がいつも言っていたのが、「沢はやるな」「雪はやるな」だった。興味なかったのにいつも言われていた。そして山を始めている現在、「やるな」と言われると「やりたい」が人情である。

せっかく佐藤さんが「初心者」OKと言ってくれていることもあり、思い切って参加させていただいた。沢の道具一式を新調したが、常識を知らないので沢靴で渋沢に着いて、「帰りの靴、持ってきた？」といきなり先制パンチを浴びた。そうか・・・濡れるし、沢から戻る時は登山靴が必要じゃん・・・と。渋沢到着時は結構寒く、帰りズクズクの靴は寒そうだな・・・と凹む。次から気を付けます・・・

ということで、佐藤リーダーを先頭にヒゴノ沢に突入する。少し行くと7m程の滝が現れた。佐藤さん苦労の末、登り切って支点を確保し、ビレイしてもらい登る。ずるずる滑って難しい。水も冷たくて手がかじかむ。そもそも寒い。何とかよじ登って上に上がるが、上がらせてもらった感じだった。その後は小さな小滝やゴロゴロの岩場を気持ち良く進んでいく。誰もいないし、水の音しかしない本当の自然で、実にキレイだ。

と言っているうちに、巨大な人工物が現れた。「堰堤」である。記憶が曖昧だが、7つ位はあったような・・・これを捲くのがかなり大変だった。捲きの斜面の傾斜もかなりきつく、踏み後もほぼ見当たらない。岩をつかむがボロボロと崩れ、足場ももろく「ラク！」の連発。崩れた岩があやうく須田さんを直撃しそうになる。

苦労して「堰堤」群を突破し、昼食休憩の頃から空は青空に変わる。ふと我に返って廻りを見渡すと、手付かずの自然、自然・・・誰もいない。昼食後はひたすら詰め上げ、ほぼ水のない沢をよじ登る。表尾根までの最後の急登は、踏み跡の見当たらないズルズルのガレで足場の確保も難しい。これをよじ登り、三ノ塔と烏尾山の間によやく出た。

戸川林道に行く頃には、靴は泥だらけで乾いていた。渋沢の「晩頂」に連れて行っていただき、打ち上げ。「ブリ大根」と「アホきつね」が実に美味！お酒を飲んで、気持ち良く帰途につく。「沢はやるな」の意味が少しだけわかった気がしたが、一度でわかるはずもなく、もっと経験を積んで行こうと思った次第である。

(記:今 敬広)

CT：大倉バス停 8:30 - 戸川林道 - 上倉見橋 10:00 - ヒゴノ沢-烏尾山 14:30
-大倉バス停



大滝 7m を見上げる